

## 霞ヶ浦駐屯地・「広報センター」外観！

◆ 観覧ご希望の問合せ先は、  
電話・029-842-1211 広報班迄

を標す、併設館ならではの貴重な資料がまだまだ多数展示されているのです。

因みに霞ヶ浦も、予科練で名を馳せた土浦の旧海軍航空隊の機体やエンジン整備を主とする「第一海軍航空廠」を引き継ぐ経緯を辿って現在に至っています。

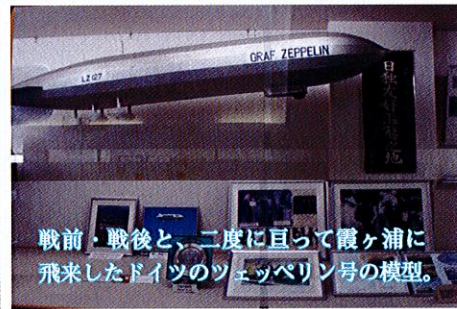
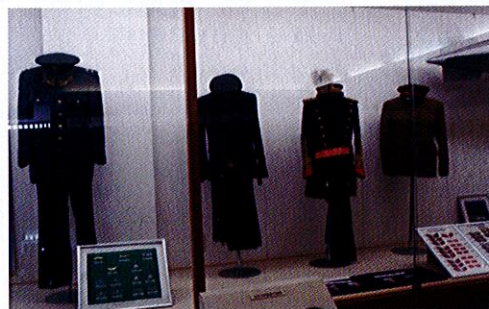
今年で日本も、戦後72年を迎えます。僅か10年余りの驚異的なスピードで復興を果し、世界有数の経済大国へ躍進したばかりか、

今やG7・主要先進国のメンバーとして、国際社会を主導する地位にあります。自衛隊も既に創立60余年の時を経ています。

創設来、試練に晒されながらも度重なる災害出動や、危険の伴う海外活動も体験して来ました。

国際緊急援助活動には19ヶ国、PKOに至っては14ヶ国・26年にも及び、しかも、それは限られている制約の下で一人の死者も出さず事無く成し遂げた、偉業と評価すべき実績です。今や自衛隊は国際貢献のみならず、災害大国・海洋貿易立国日本に無くては成らない存在です。しかし、欧米先進国を追い越し豊さは得たものの、同時に少子高齢化現象が進行しつつあるのも事実です。こうした自衛隊の実績は当然歴史に標されて然るべき功績であり、次世代に伝え継がれていかなければなりません。伝承者たる年代層の減少は如何ともし難く現状打つ手がありません。ならば、心情的認知をした以上、それを理解し、支えていくのが国民の果すべき義務であり知る権利でも在るのです。何れにせよ、その手短で、唯一の手段と方法こそが、自衛隊併設の資料館なのです。是非これを機に、夏休みを利用して、友人やお子様連れで「資料館」を見学されて見ては如何でしょうか……？

最後に、自衛隊の全ては、ここ「資料館」に在りと、重ねがさね述べさせて頂きます。



戦前・戦後と、二度に亘って霞ヶ浦に飛来したドイツのツェッペリン号の模型。



## ◆ 野外展示

館内1～2階の展示風景です。1階には第1海軍航空廠や霞ヶ浦海軍航空隊のパノラマ模型に、現駐屯地の詳細な歴史年表が展示され、また、2階には自衛隊の活動や銃器に、旧海軍時代の貴重な現物資料の数々が、所狭しと、広々としたスペースに展示されていて、見る人を惹きつけて止まないようです。

